

介護人材に関する意見

公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

副会長 田中博一

1 外国人介護福祉士資格取得者の在留資格を認めることに賛成

介護人材不足、将来の労働力減少さらに経済・社会のグローバル化を鑑み、外国人労働者の受け入れはやむを得ない状況であり、専門的・技術的分野に新たに「介護業務」として、国家資格である介護福祉士有資格者の在留を認めることに賛成である。

2 技能実習制度による外国人介護労働者の受け入れに反対

一部マスコミによると、介護労働は「専門性や技能の高くない労働」という理解であるが、介護は直接要介護者の身体に触れる行為や日本語のコミュニケーションが必要な業務であり、とりわけ 470 万人といわれる認知症の介護は専門的知識と技能が求められ、単純労働といわれるものではない。介護事故が発生すれば命にかかわることもあり、事業者責任と介護者自身の過失責任が問われることになる。介護事故（過誤）の予防や介護の質を担保するために「技能実習制度」による外国人実習生の受け入れは反対である。

3 外国人に予備職業教育の実施と養成施設における教育をする

現行 EPA による外国人介護福祉士の候補者にとって、介護福祉士国家試験の日本語が難解であるが、平成 25 年度の合格率は約 40% となり初受験者の合格率は 50% を越えてきている。合格率向上のために、語学支援をさらに充実すべきである。フィンランドの事例では、移民のために 1 年間の予備職業教育（フィンランド語と文化・生活様式）を受け、それから 3 年間の介護福祉士課程で学ぶ教育している。

日本においても、外国人を留学生として養成施設で受け入れ、日本語・日本文化を理解する教育を取り入れて体系的な技術と知識を修得させ、要介護者が安心して介護を受けることができる人材を育てるような長期的展望が必要である。介護福祉士養成は「研修」ではなく「教育」の視点が重要である。

4 介護福祉士は働きがいのある人間らしい仕事の資格に

国家資格である介護福祉士制度は、昭和 62 年（1987）に創設され、同時に養成施設で専門教育を開始し 26 年の歴史がある。介護福祉士養成教育は 2 年間（1850 時間）で、“根拠のある介護”を実践する職業能力を修得させ、要介護者の QOL（生活の質）を向上させる能力を持つ。国は介護福祉士の社会的評価を高め、仕事に見合う処遇を構築し、介護福祉士が「働きがいのある人間らしい仕事」に就労する施策を実施すること。

5 安易な解決策では日本の介護に未来はない

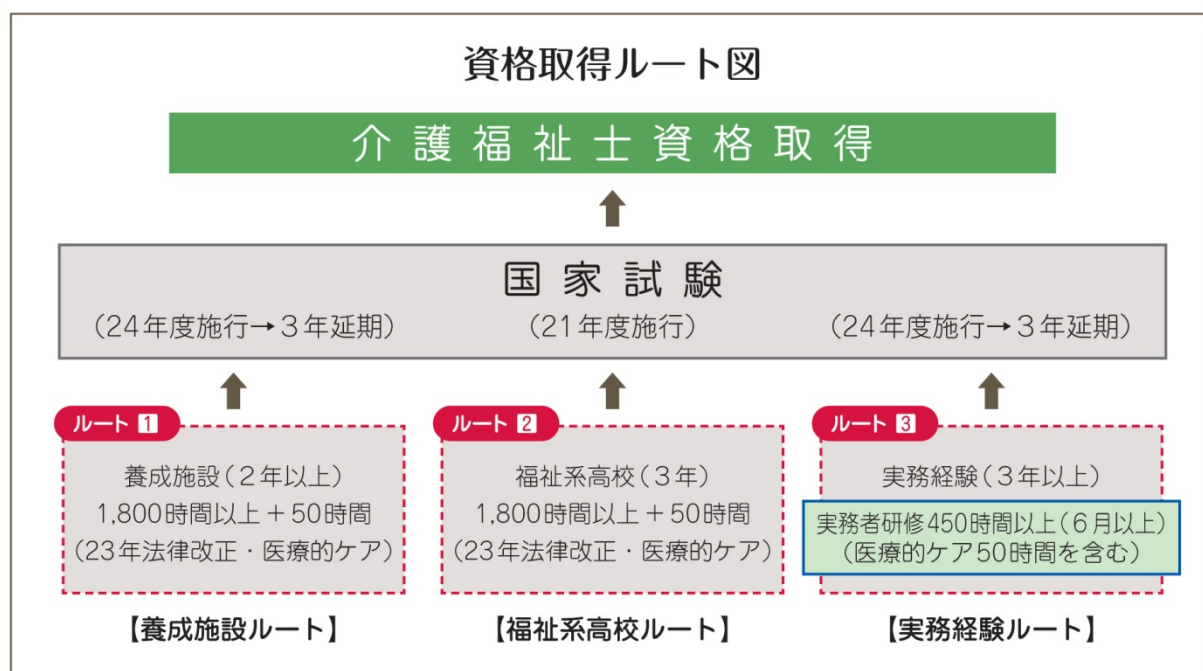
周知のとおり世界は、日本国が高齢社会の諸課題にどのように対処するか極めて関心が高い。とりわけ、介護問題は諸外国が注目しており、外国人を単純労働として低賃金で介護に従事させる形での施策では世界に範を示せず、むしろ、日本の介護が崩壊する。

介護福祉士資格の取得方法は3ルート

高齢化社会の到来により、「介護」を専門的に担う人材の必要性が社会的に要請され、昭和62年（1987）に制定された社会福祉士及び介護福祉士法により、介護の専門福祉職が生まれました。その中で、介護福祉士養成施設（大学、短大、専門学校）の卒業者は国家試験免除で介護福祉士資格を取得できました。しかし、介護福祉士関連の法改正が数度にわたり行われて、現在3ルート全てが国家試験を受験することになりました。現有資格者のうち養成施設卒業の有資格者は約27%で、その割合は減少傾向にあります。

国家試験受験

- ルート 1** 介護福祉士養成施設卒業『1,800時間＋50時間（医療的ケア）』（高校卒業後2年以上）
- ルート 2** 福祉系高校卒業『1,800時間＋50時間（医療的ケア）』（中学卒業後3年）
- ルート 3** 実務3年以上の経験者『450時間以上（医療的ケア50時間を含む）』



出典：「介護福祉士養成施設の現状と課題」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成26年3月

養成課程のカリキュラム比較（1,850 時間と 450 時間）

養成施設（大学・短大・専門学校）

1,850 時間

領域			教育内容	時間数
人間と社会	人間の理解	必修	人間の尊厳と自立	30以上
			人間関係とコミュニケーション	30以上
	社会の理解		60以上	
		選択	※上記必修科目のほか、人間と社会に関する選択科目	
		小計		240
介護			介護の基本	180
			コミュニケーション技術	60
			生活支援技術	300
			介護過程	150
			介護総合演習	120
			介護実習	450
			小計	1,260
こころとからだのしくみ			発達と老化の理解	60
			認知症の理解	60
			障害の理解	60
			こころとからだのしくみ	120
			小計	300
			医療的ケア	50
			合計	1,850

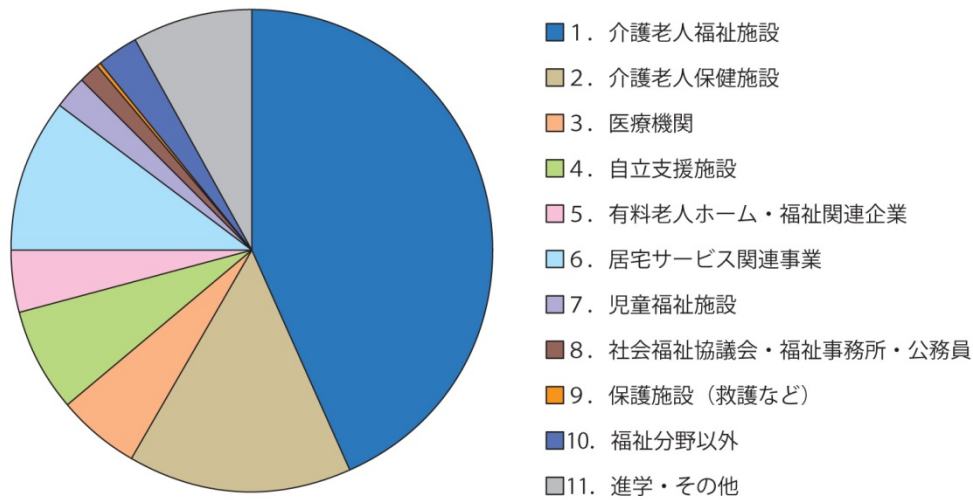
実務経験（6月）

450 時間

領域		教育内容	時間数	
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	5	
	社会の理解	社会の理解	35	
	小計		40	
介護		介護の基本	30	
		コミュニケーション技術	20	
		生活支援技術	50	
		介護過程	90	
		小計		190
こころとからだのしくみ		発達と老化の理解	30	
		認知症の理解	30	
		障害の理解	30	
		こころとからだのしくみ	80	
		小計		170
		医療的ケア	50	
		合計	450	

出典：「介護福祉士養成施設の現状と課題」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成 26 年 3 月

介護福祉士養成施設卒業者の進路



(単位：人)

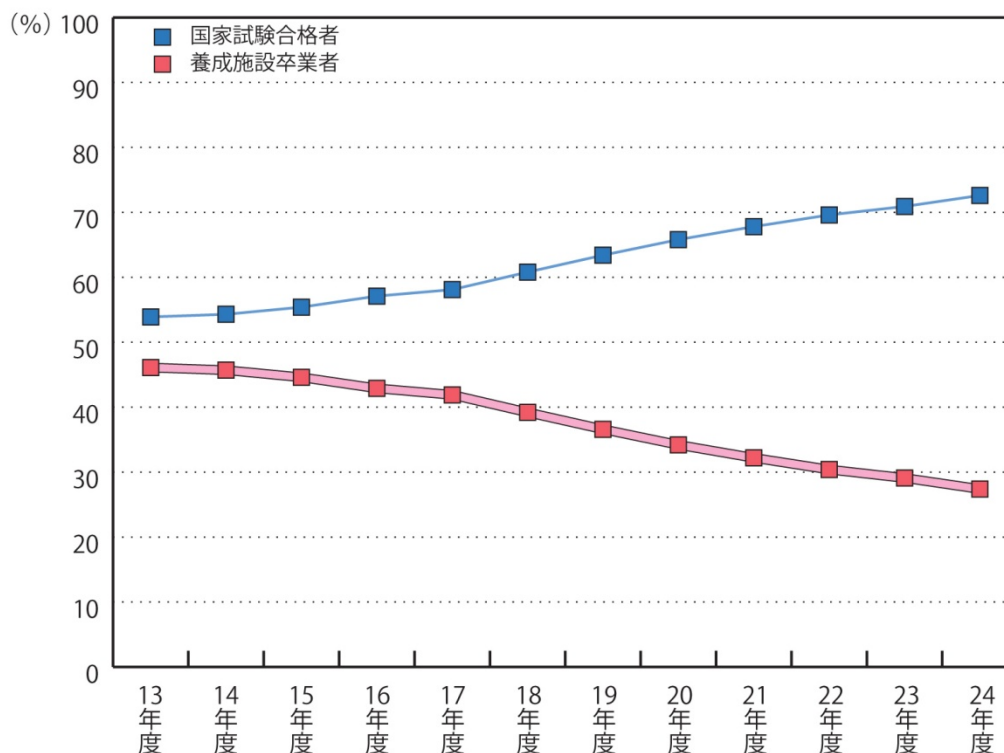
分類		年度(平成)	22年3月	23年3月	24年3月	25年3月
就職	1. 介護老人福祉施設		3,537	3,570	4,948	4,213
	2. 介護老人保健施設		1,398	1,299	1,651	1,477
	3. 医療機関		434	495	683	524
	4. 自立支援施設(知的・身体・精神)		473	529	742	681
	5. 有料老人ホーム・福祉関連企業		253	329	407	396
	6. 居宅サービス関連事業(訪問介護・入浴・グループホーム・デイサービスなど)		466	662	1,030	1,015
	7. 児童福祉施設		467	298	243	219
	8. 社会福祉協議会・福祉事務所・公務員		109	144	141	137
	9. 保護施設(救護など)		20	13	26	27
	10. 福祉分野以外		328	298	323	263
	小 計		7,485	7,637	10,194	8,952
進学・その他	11. 進学		232	329	323	205
	12. その他(未定者等)		219	246	700	564
	小 計		451	575	1,023	769
合 計			7,936	8,212	11,217	9,721

(注) 協会の進路問題研究委員会による調査回答養成施設卒業者数の集計

出典：「介護福祉士養成施設の現状と課題」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成 26 年 3 月

介護福祉士登録者数累計の推移

1. 累計登録者割合の推移



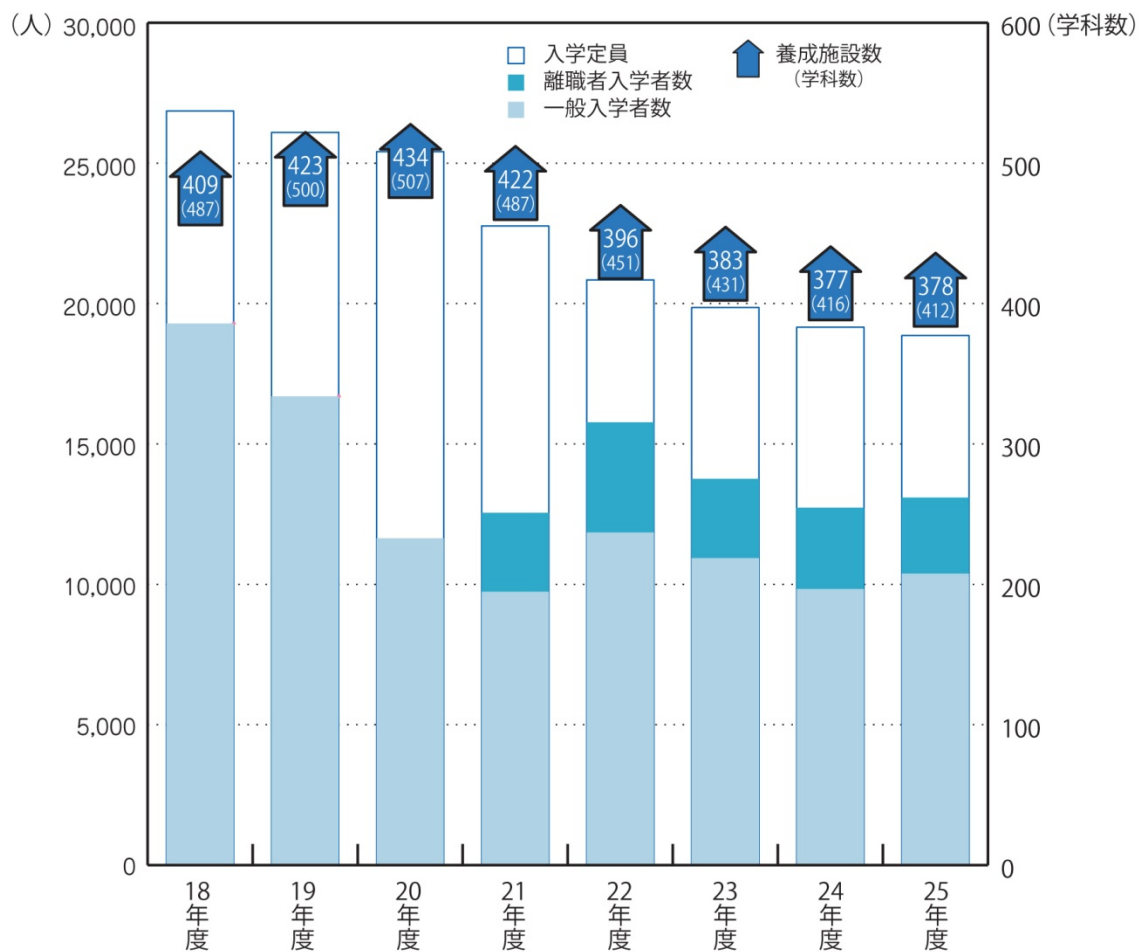
2. 累計登録者数(各年度末現在)の推移

年度(平成)	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
国家試験合格者(人)	147,534	172,241	204,378	244,133	282,629	343,132
養成施設卒業者(人)	126,271	144,876	164,338	183,440	203,668	221,674
登録者計(人)	273,805	317,117	368,716	427,573	486,297	564,806
養成施設卒業者の割合(%)	46.1	45.7	44.6	42.9	41.9	39.2

年度(平成)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
国家試験合格者(人)	416,092	488,837	556,902	633,630	708,335	795,428
養成施設卒業者(人)	239,704	254,094	264,925	276,608	290,162	300,778
登録者計(人)	655,796	742,931	821,827	910,238	998,497	1,096,206
養成施設卒業者の割合(%)	36.6	34.2	32.2	30.4	29.1	27.4

出典：「介護福祉士養成施設の現状と課題」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成26年3月

介護福祉士養成施設入学者数の推移



年度(平成)	18年度	19年度	20年度	21年度
一般入学者数(人)	19,289	16,696	11,638	9,733
離職者入学者数(人)	0	0	0	2,815
養成施設数(学科数)	409(487)	423(500)	434(507)	422(487)
入学定員(人)	26,855	26,095	25,407	22,761

年度(平成)	22年度	23年度	24年度	25年度
一般入学者数(人)	11,845	10,931	9,830	10,381
離職者入学者数(人)	3,926	2,826	2,900	2,709
養成施設数(学科数)	396(451)	383(431)	377(416)	378(412)
入学定員(人)	20,842	19,858	19,157	18,861

出典：「介護福祉士養成施設の現状と課題」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成26年3月

介護福祉士国家試験結果（第25回、第26回）

[合格率]

		第25回	第26回
全受験者		64.4%	64.6%
EPA 候補者	全体	39.8%	36.3%
	・初受験者	38.8%	54.1%
	・再受験者	55.2%	12.9%

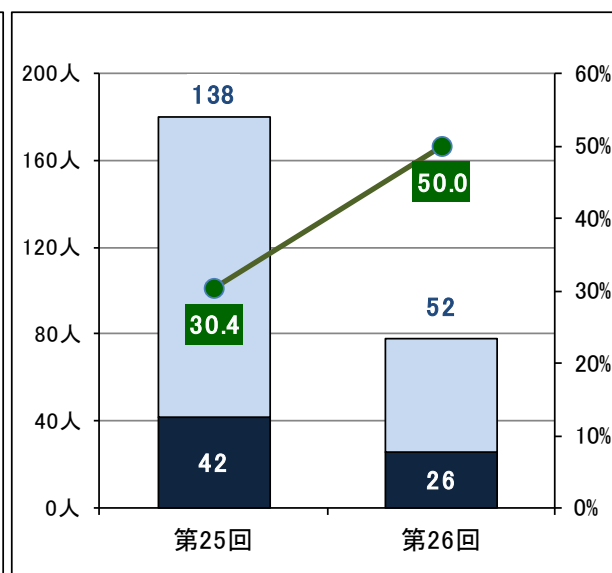
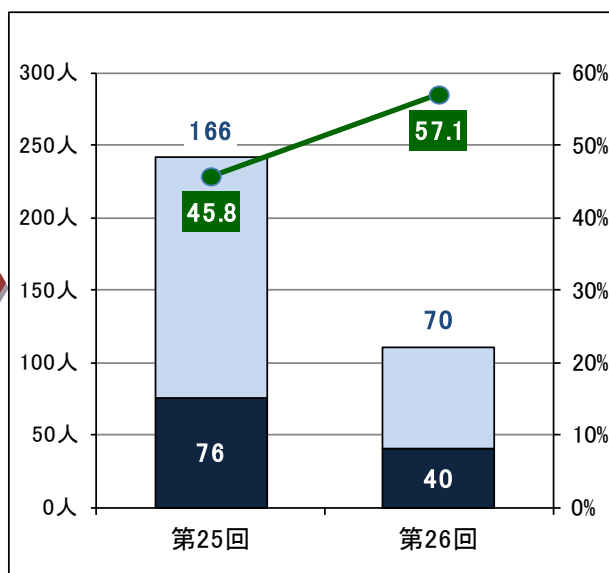
[各国の初受験・再受験別合格者数]

■ 受験者数 ■ 合格者数 ● 合格率

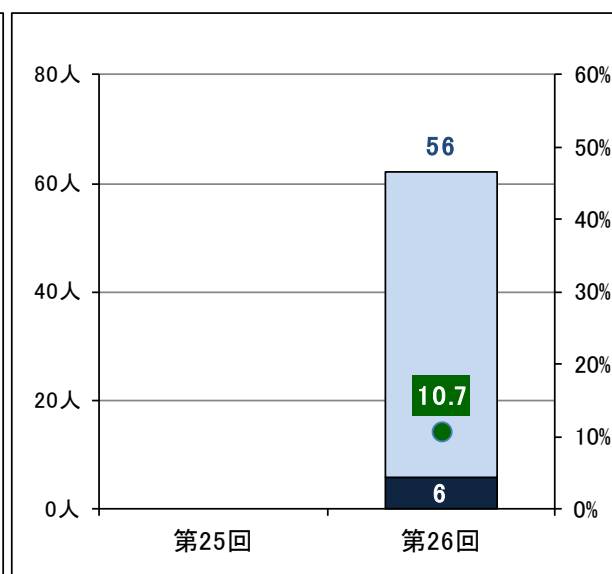
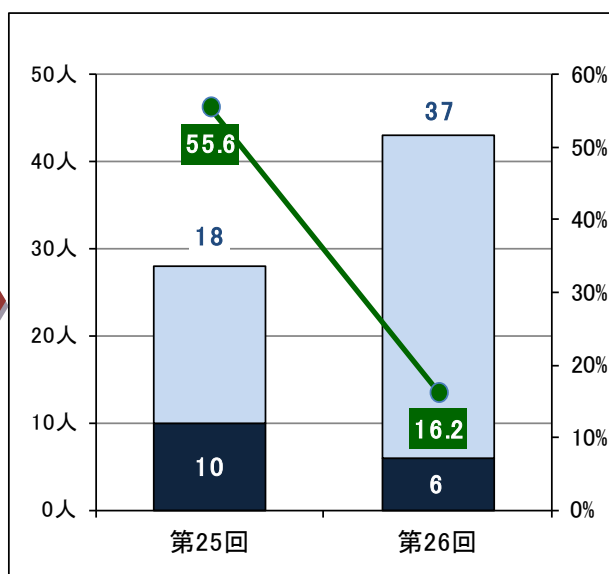
インドネシア

フィリピン

初
受
験

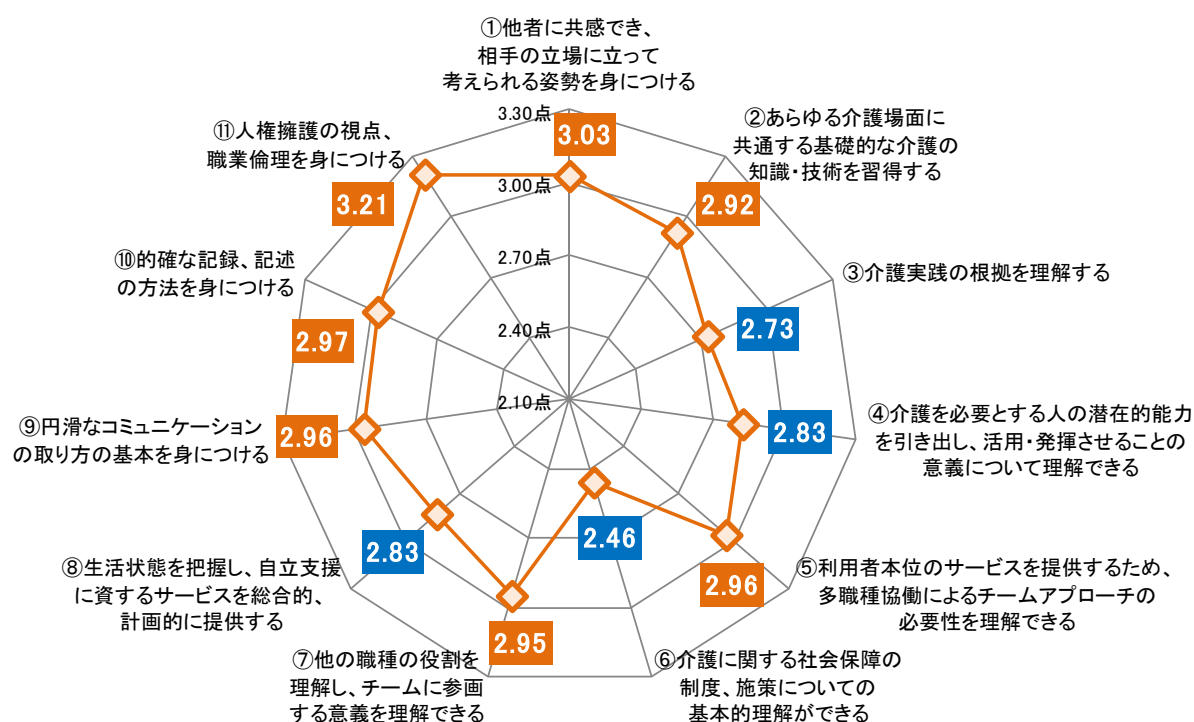


再
受
験



出典：厚生労働省社会・援護局福祉基盤課資料より公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が作成

介護福祉士の職業能力評価



出典：「離職者訓練制度を活用した平成 23 年 3 月修了生の就職先における職業能力評価に関する調査報告書～介護福祉士と職業能力～」、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、平成 26 年 3 月